

近世・近代風俗画における服飾表現に関する分野横断的研究

—小袖及び着物の編年的研究への絵画研究の活用—

The Cross-genre Study of Costume Depictions in Pre-modern and Modern Genre Paintings
—Applications of painting scholarship to the chronological study of Kosode and Kimono
garments—

長崎 巖^{*1+}, 田沢 裕賀^{*2+}, 家田 奈穂^{*3+}, 佐藤 浩子^{*4+}, 西井 智美^{*5+}
Iwao Nagasaki^{*1+}, Hiroyoshi Tazawa^{*2+}, Naho Ieda^{*3+}, Hiroko Sato^{*4+}, and Satomi Nishii^{*5+}

*1 共立女子大学 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1

Kyoritsu Women's University,

2-2-1 Hitotsubashi Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

*2 東京国立博物館

Tokyo National Museum, Tokyo, Japan

*3 ニューオータニ美術館

New Otani Museum of Art, Tokyo, Japan

*4 町田市立博物館

Machida City Museum, Kanagawa, Japan

*5 共立女子大学

Kyoritsu Women's University, Tokyo, Japan

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract: We did research of the collections of genre arts of Momoyama and early Edo period, ukiyo-e paintings of Edo period and bijinga paintings of Meiji period in Japan last year. We kept doing research of these kind of paintings in Tokyo, Hikone, Kyoto, Fukuoka, Kumamoto, Naha, Nagoya and Atami this year, and we could have some new discoveries such as the facts showing here.

We could find out the fact that the costumes painted on genre arts and ukiyo-e paintings can be helpful to judge their date, and that we can judge that the paintings are the copies or fake objects if their costumes painted have some unnatural expressions.

At the symposium held at National noh theatre on December 4th, 2010, we could also show that kyogen costumes painted on the hand scroll named *hyakuman-emaki* were telling us the date of this object.

We will continue the research on the genre paintings and costumes of pre-modern and modern times next year. We will also clarify the relation between both of them.

*1) nagasaki@kyoritsu-wu.ac.jp

はじめに

2009 年度における、近世初期風俗画、肉筆浮世絵、近代風俗画の所在確認作業を受けて、今年度もこれらの絵画作品及びこれらの時代に制作されたと考えられる染織品の調査を行なった。調査先は東京都・彦根市・京都市・名古屋市・熱海市・福岡市・熊本市・那覇市に所在する美術館・博物館・研究施設等である。

絵画作品(近世風俗画や浮世絵)の調査においては、絵画における服飾描写が、作品の制作年代を知る大きな手立てとなることが明らかになった。また不自然な服飾描写を発見することによって、それが真作ではなく模古の絵画作品である可能性を指摘できることも明らかになった。

これらに関連し、国立能楽堂において開催された、狂言の「百万」を描いた卷子本「百万絵巻」と、同主題を描いた冊子本「百万絵本」に関するシンポジウムにおいて、それらに描かれた狂言装束の様式と特徴を手がかりに、これらの制作年代に関する仮説を述べた。具体的には、描かれた装束と現存する染織作品とを比較し、これらの絵画作品の制作年代を類推した。

また江戸時代の服飾品の調査も行い、衣服の様式変遷そのものの精度をあげるよう心がけた。

A 近世初期風俗画及び浮世絵の調査

(1)平成 22 年 2 月 25 日(木)～26 日(金) <平成 21 年度未報告分>

※平成 21 年度の報告に間に合わなかったため、今年度の報告に収録。

於 九州国立博物館

参加者 長崎・田沢・家田・西井

九州国立博物館蔵「唐船・南蛮船図屏風」(6 曲 1 双、江戸時代・17 世紀)、文化庁蔵・狩野内膳筆「南蛮屏風」(6 曲 1 双、桃山～江戸時代・16～17 世紀)、九州国立博物館蔵「駿河湾南蛮船来航図屏風」(6 曲 1 双<うち右隻を調査。左隻は本課題で 22 年 6 月 16 日に調査>、江戸時代・17 世紀)の調査を行った。

「唐船・南蛮船図屏風」は、南蛮と日本の交易を仲介する中国船(唐船)の様子が描かれている点に特徴がある。制作年代は江戸時代初期と考えられ、本作品からは当時の日本人・南蛮人・中国人の服飾様式を窺うことができるだけでなく、描かれた輸出入品から当時の染織品の様式を知る事ができた。

狩野内膳筆「南蛮屏風」においては、日本人よりもポルトガル人の描写が比較的多く見られる。近世初期の南蛮人の服飾は日本の染織に多くの影響を与えており、「唐船・南蛮船図屏風」と合わせて、南蛮人の服飾についても注目したい。調査後の会議で、2 件の作品と併せて、その他の南蛮図屏風のサンプル数を増やし、比較・検討が必要であるとの結論に至った。

(2)平成 22 年 6 月 15 日(火)～16 日(水)

於 九州国立博物館

参加者 長崎・田沢・家田・西井

九州国立博物館蔵「邸内遊楽図屏風」(2 曲 1 隻、江戸時代・17 世紀)、九州国立博物館蔵「洛中洛外

図屏風」(6曲1双、桃山時代・16世紀)、九州国立博物館蔵「駿河湾南蛮船来航図屏風」(6曲1双のうち左隻を調査;右隻は本課題で、2010年2月26日に調査済)、江戸時代・17世紀)、及び太平洋セメント(津久見市)蔵「南蛮人遊楽図屏風」(6曲1隻、桃山～江戸時代・16～17世紀)の計4件の調査を行った。

今回の調査においても、作品に描かれた服飾から制作年代の微妙な違いが判断できる可能性が明らかとなった。

(3)平成23年1月14日(金)～16日(日)

於 彦根城博物館、細見美術館、城陽市歴史民俗資料館五里ごり館、徳川美術館、MOA美術館
参加者 長崎・田沢・家田・西井

彦根城博物館において、「翁 ー新年を寿ぐー」展を観覧し、井伊家伝来の能装束と、能関係の近世絵画の比較検討を行った。

細見美術館においては、江戸狩野派作品及び、江戸琳派作品の調査を行った。

城陽市歴史民俗資料館では、近代の型染織品について調査を行った。

徳川美術館においては、尾張徳川家に伝来した能面や能装束・能道具を中心に調査をした。

MOA美術館では、MOA美術館所蔵の肉筆浮世絵(勝川春章筆・重要文化財「雪月花図」ほか、菱川師宣、宮川長春、喜多川歌麿、葛飾北斎らが描いた肉筆浮世絵約30点を調査した。

主な調査作品は、以下の通り。

柳下腰掛美人図	宮川長春	江戸時代	18世紀
重文 雪月花図	勝川春章	江戸時代	18世紀
寒泉浴図	喜多川歌麿	江戸時代	18世紀
玄宗皇帝楊貴妃図	鈴木春信	江戸時代	18世紀
菖蒲をもつ女図	歌川豊国	江戸時代	19世紀
竹林三美人図	窪俊満	江戸時代	18世紀
鶴飼図	葛飾北斎	江戸時代	19世紀

(4)平成23年1月22日(土)～24日(月)

於 石垣市立八重山博物館、宮良殿内、沖縄県立博物館・美術館、首里城公園、那覇市歴史博物館、沖縄伝統工芸館琉球の館
参加者 長崎・家田・西井

石垣市立八重山博物館、宮良殿内においては八重山上布等の染織品や、蔵元絵師によって描かれた風俗画等の調査を行った。

沖縄県立博物館・美術館、首里城公園、那覇市歴史博物館、沖縄伝統工芸館琉球の館においては、国宝尚家資料に含まれる紅型装束や、緋衣装等の染織品を調査し、また尚家の江戸上り等を描いた近世風俗画の調査を行った。

調査により、琉球の風俗を描いた絵画においては、おもに男性の服飾を描いたものが多く、一方染織品においては、女性の衣服が多く残っていることが明らかとなった。現存資料におけるこれらのねじれをどのように解消していくのが、今後の研究の課題であると考えられる。

(5) 平成 23 年 2 月 10 日(木)～12 日(土)

於 熊本県立美術館本館、細川コレクション永青文庫展示室、熊本城、熊本市立熊本博物館、旧細川刑部邸

参加者 長崎・家田・西井

細川コレクション永青文庫展示室、熊本城、熊本市立熊本博物館、旧細川刑部邸において、細川家伝来の近世・近代風俗画及び染織品の調査を行った。

熊本県立美術館「浮世絵にみるファッションの世界」においては、熊本県立美術館に寄贈された今西コレクションの浮世絵 47 点を調査し、作品の時代表記(絵画研究における制作年代の推測)と描かれている服飾表現についての比較検討をした。その結果、今西コレクションの浮世絵に描かれた服飾の様式年代と絵画としての時代表記には、大きな時代の開きがあることがわかった。

B シンポジウムでの発表

平成 22 年 12 月 4 日 (土)

於 国立能楽堂

発表者 長崎

第 34 回芸能史研究会東京例会(テーマ「能楽の絵画資料を多角的に検証する - 「百万」絵巻・絵本を対象として -」)において、「「百万」絵巻・絵本に見られる服飾表現」と題し、研究発表を行った。

本来、無形文化である芸能の史的研究においては、絵画資料が重要な役割を果たすと考えられるが、その際に、絵画に描かれた内容の信憑性の判断や、絵画の制作年代の推定に、画中の服飾表現が手がかりになることを明らかにした。

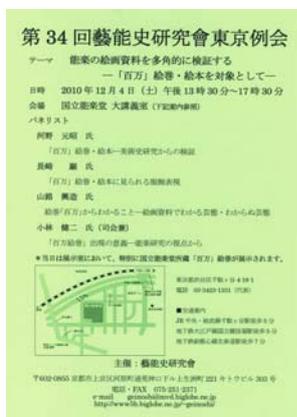


図 1 <ポスター>

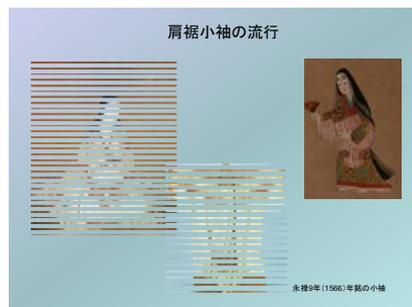


図 2 <発表で用いたパワーポイントの例 (1) >



図 3 <発表で用いたパワーポイントの例 (2) >

「百万絵巻」に見られる服飾表現と現存染織品・肖像画との比較検討を行った。

おわりに

今年度は作品調査を中心に、近世初期風俗画、肉筆浮世絵、及び江戸時代の染織品、琉球の染織品の情報収集を行った。

絵画作品の調査においては、熊本県立美術館における浮世絵の調査において発見された問題点が、今後の本研究の存在意味の大きさを示唆しており、重要である。

来年度は、各地美術館に所蔵されている風俗画と小袖服飾類、特に近代の諸作品の調査を行なうとともに、江戸時代から明治時代に刊行された小袖雛形本の調査をこれに加え、これらの相関関係を明らかにしていくことに努めたい。